

# 初級段階の中国語学習者の意欲向上を目的とする 授業法の開発とその実践報告

—教養語学を中心に

張 軼 欧

## 0. 始めに

どの分野においても学習者（学生）の学習意欲の重要性に疑問の余地はないだろう。特に、大学全入時代を背景として、大学における教養中国語教育における学生の学習意欲の重要性はさらに高まると思われる。それゆえ、最近の中国語教育の分野では、初級段階<sup>1)</sup>でどのような方法により学生の学習意欲を引き出せばよいかについての議論が活発になってきている。

しかし、残念ながら、この分野の研究はあまり進展していないのが現状である。そこで、筆者は2006年三つの大学で380人の学生に対してアンケートの形で学生の履修目的、授業の満足度、そして学生の中国語の授業に対する不満であるところ、希望すること、などについて調査し [具体的なデータは（張2007）<sup>2)</sup>を参照のこと]、その調査の結果に基づいて、初級段階の学習の指導方針、及び簡単な対策を考えた。その上で、2007年4月から筆者は研究結果（張2007）に基づき、この指針の有効性の検証を行った。小論はそれらの実践例の報告である。

## 1. 実践研究の対象

本研究に望ましい実践対象として、(1)学生が完全な未修者であること、(2)それ以外の中国語の授業を受講していないこと、などの条件を満たす必要がある。特に、(2)については、他の指導者の授業方針の影響を省くために必須である。これらの条件を満たすクラスとして、2007年4月から大阪国際大学で私が担当している一つのクラスを選んだ。このクラスは、授業者名簿に登録している学生が43人であるが、登録するだけで一度も出席していないのは4人、最初の3回しか出席していないのは2人、授業の途中から来なくなった学生が1人、履修登録をしないまま受講している学生が1人である。したがって、実際に正規に受講している学生は37人である。学年別には、二回生と三回生がそれぞれ1人ずつ含まれているが、一回生の3人の既習者以外の34人は全員初心者である。以上より、このクラスはほとんどの学生が条件(1)、(2)を満た

している。

大阪国際大学では、教養科目としての中国語は必修科目ではなく、卒業するまで中国語・スペイン語・ドイツ語・フランス・韓国語などの外国語から8単位を取ればよいことになっている。一回生の中国語は Semester制（一週間二回の授業であり、一学期2単位）であり、一学期の授業数は試験を除いて全部で30回である。第1学年は全部で8クラスあり、授業時間は統一されておらず、学生が都合のよい時間を選ぶため、各クラスの人数も10人位から70人位まで幅がある。私が担当しているクラスは月曜日の1限目と水曜日の5限目である。一般的に、1限目と5限目の組み合わせは学生にとって、あまり好ましい時間帯ではないと考えられる。

また、大阪国際大学の1回生は統一の教材を用いている。現在使用している教材は『中国語への船出』（朝日出版社、2003年版）である。

## 2. 授業の方針と具体的な進め方

実践報告に移る前に、まず、前報 [張 (2007)] に基づいて、どのような対策を立てたかを簡単に紹介しなければならない。張 (2007) の研究結果によって得られた方針を簡単にまとめると以下の通りである。

- (ア) 初級段階では、学問より学生の意識を重視する。
- (イ) 授業の中心は口頭表現のスキルの向上に置く。
- (ウ) 文法の教授については、文法事項はできるだけ公式の形で示し、文法事項によって、異なる教授法の導入が必要である。
- (エ) 授業中、教科書だけに頼らず、ビデオ、雑誌などを使って、学生に中国の文化、現代事情などを紹介する。これらは全て学生の中国語に対する学習意欲を引き出すことを目的とするものである。

以上の教育方針はアンケートの調査結果により得られたものである。この方針と対策に基づいて、筆者は実際に授業をするとき、以下に挙げる10項目の具体的な方法を採用した。

- (1) 毎回授業の最初に当日の授業内容や達成した場合の効果を学生に説明する。

ここで最も重要なのは、その内容を“具体的に”学生に伝えることである。例えば、『中国語への船出』の第一課の内容は人称代名詞、動詞述語文、判断文、「呢」を使う省略疑問文、「嗎」を使う疑問文などである。もしこのまま学生に伝え、授業を進めれば、学生はきっと文法用語に戸惑い、個別の意味や用法を理解できないだろう。専門的な文法用語の中にはあまりにも抽象すぎるものが結構あるので、それらは学生の理解力を超えている。筆者は学生たちに対して、「今日私たちが勉強する内容は中国人と会う時の、相手の名前をたずね方、自分の名前や身分の紹介の仕方です（授業内容）。これをマスターすれば、中国人と簡単な

コミュニケーションを取れるようになるので(学習効果)、しっかり勉強しましょう」と伝えた。

- (2) 学生とコミュニケーションをとりながら授業を進める。具体的には、質問形式による授業の導入を行い、学生の関心を向けさせる。

筆者は新しい課を勉強する場合、必ず単語から始めることにしている。教科書には単語の意味が書かれているが、筆者はその授業において勉強する内容に含まれている単語を全部ペンインとともに黒板に書き出し、その後学生に一個ずつ発音してもらう。それから、その意味を学生に説明する。単語の意味を説明する同時に、その使い方も説明する。筆者はいきなり説明せず、学生に質問する形式で始める。例えば、「是」を勉強する時、「是」は「～である」という意味を説明した後、「私は日本人です」をどのように表現しますかと学生に聞く。学生は「我日本人是」、「我是日本人」という二つを答えたことがあった。学生に正しい表現を説明してから、同時に中国語の主語、述語、と目的語の位置は「S+O+V」のような日本語の順番とは逆の「S+V+O」という形であり、英語とは似ていると説明した。また、副詞「不」を勉強した後、「私は日本人ではない」をどのように表現するのかと学生に質問した。併せて中国語の副詞の使い方を説明する。その上、中国語の副詞の使い方は日本語と英語とは異なることも説明した。

- (3) 学生自身の力で問題を解決させ、達成感を実感させる。

筆者が使っている教科書は、毎課ごとに練習問題が付いている。読む練習以外の書く練習は、筆者はいつも学生に黒板に答えを書いてもらう。間違っているものに対して、直接直さず、いつも「この文には間違いがあります。自分で探してみてください」と学生に指示し、時間を与えて学生自身の力で問題を解決させた。学生にとって分かりにくい間違いは、例えば中国語の漢字と日本語の漢字の微妙に異なる所、複雑な文の場合は、「この漢字を間違えましたよ」、「方位詞の使い方を間違えましたよ」などのようなヒントを学生に与えた。

- (4) 学習者同士のフィードバック。

筆者の授業は毎回復習から始まる。復習は二種類に分けている。一つは学生同士一緒に発音する練習、発音の段階では、四声、単母音、複母音、及びこの段階に並んだ家族の構成、食べ物などのような基本単語の暗誦、本文に入ってから、また基本文型の暗誦もいれる。その時、筆者は日本語で「私は大学生です」「私は紅茶を飲みます」などのような文を言い、学生に中国語に訳して貰う。筆者が中国語を言って、学生に日本語に訳して貰うような逆の場合もある。その二は、前回習った内容についての筆記小テストを実施する。小テストは筆者が日本語或いは中国語で話し、学生が聞いた文を全部中国語で書いてもらう。小テストの数はその内容によって、毎回同じではないが、大抵5問～8問の間である。その後、筆者が

採点せず、その場で学生同士に学生同士お互いに採点、間違いを直させる。満点を取った学生に対して、記録し、期末試験の時、それは点数として期末試験の成績に加える。6回<sup>3)</sup>満点を取っていれば、単位を取れる。第一回授業の開始時に、すでに学生にこのような内容を伝えてある。採点基準も学生に教えて、その基準は細かいものである。例えば、文自体は正しくても、字の書き間違いの場合は満点として扱わない。間違った所に対して、その場で学生に3回ずつ書いてもらう。

(5) 授業の中心は口頭表現のスキルの向上に置く。

筆者の授業は口頭表現のスキルの向上を中心に置いている。というのは、文法を説明することより、単語の発音、基本的な文を読むことにもっと時間をかけている。本文に出る単語、及び文は一回の授業全部合わせて大抵6、7回を読ませる。最初の2回は教師に付いて読む、学生は個別で読むのは2回位、みな一緒に読むのは2、3回。その後、もっとも基本的な文を学生にその場で暗誦してもらう。

(6) ただの教科書の丸暗記ではなく、学生に二人一組で会話を作らせ発表させる。

本文を何回も読んでから、学生同士に（大抵二人、三人の場合もある）教科書の文型を真似し、自分で会話を作らせ、お互いに自分の席で練習させ、その後前に来て発表してもらう。学生が自分で会話を作るとき、わからない単語があった場合、その場で学生に教える。毎回大抵学生に二人で四つ～六つの文を含む会話文（四つの場合が多い）を作らせている。毎回殆ど全員前に来て発表してもらう。

(7) 文法の教授を帰納的に行う。

本文に出た文法ポイントの殆どは新出単語を勉強する時に説明する。例えば、「過」を使って経験を表す文型を習う時、単語としての「過」を勉強するより、中国語で経験を表す時「V+過+O」という形になると学生に説明する。また、学生に「水餃子を食べたことがある」、「上海に行ったことがある」、「中国茶を飲んだことがある」などの文を中国語で大量に繰り返して練習させる。

(8) 一回の授業で勉強する量が多すぎないようにする。

一回の授業で紹介する新しい知識が多すぎると、学生に嫌な気持ちを引き起こすと思われる。筆者は口頭表現のスキルが向上するような授業を行うことが方針であるので、一回の授業で勉強する知識点は大体4、5個位。筆者が使っている教科書の一課の構造は殆どの教科書と同じく、新出単語、本文、文法項目、練習問題という順番である。筆者は勉強する重点は単語と本文に置いている。本文の文書の数は大抵8、9文程度である。筆者は新出単語と

初級段階の中国語学習者の意欲向上を目的とする授業法の開発とその実践報告（張）

本文と合わせて、大抵二回に分けて授業する。文法項目の部分は一回で、練習一回。毎課の勉強は4回に分けて行う。

- (9) 教科書だけに頼らず、授業中、ビデオ、雑誌、中国のお菓子などを使って、学生に中国の文化、歴史、現代事情などを紹介する。

筆者は学生の学習意識を引き出すために、授業中、教科書以外にも別の教材を用いた。筆者が学生に見せたのは、中国の切り紙や授業の内容を分かりやすくするためのビデオ（発音段階では朝日出版社の『快音』を使った）、中国のエンターテインメント番組『春節聯歡晚会』（日本の紅白歌合戦に相当する）のビデオなどである。大抵2、3週間に一回、10分間程度見せた。

- (10) 授業の順番と時間の配分。

筆者は次のような順番で授業を行った。(1)復習。(2)新しい内容の勉強。(3)中国文化に触れる。(4)会話、個人発表。それぞれの時間の配分は復習（小テストを含む）15～20分。新しい内容の勉強30分～40分。中国文化に触れる、10分～15分。会話や個人発表、10～15分。

### 3. 授業効果の検証

筆者は第2節で述べた方法を使って、学生の学習意欲を引き出すことを試みた。その達成度については、二回のアンケート調査<sup>4</sup>を通して検証した。

具体的には次の通りである。一回目のアンケート（以下は前期アンケートと呼ぶ、以下の表には前期と略称する）は学期の一週目の二回目の授業で行った。アンケートの内容は大よそ、中国や中国語に興味を持っているかどうか、中国語の履修理由、中心に勉強したいこと、中国語に対するイメージ、半年の授業が終れば、引き続き勉強するつもりがあるかどうか、自分は半年でどんな目標を持っているのかなどである（アンケートの具体的な内容や形式については付録を参考のこと）。二回目のアンケート（以下は後期アンケートと呼ぶ、以下の表には後期と略称する）は期末試験の直前前の授業で行った。その内容は一回目のアンケートの内容を殆ど含んでいる上に、授業に関する印象、小テストに対する反応、学生自身普段の学習態度、授業に対する満足度、授業に対する評価などの内容も追加した（アンケートの具体的な内容や形式については付録を参考のこと）。

筆者は主に二つのアンケートの関連項目や後期アンケートに加えられた新しい内容（例えば、学習態度、満足度、授業評価など）の分析結果を通して、筆者の考えていた初級段階の教授法

の有効性を検証する。筆者は全てのアンケート項目を、全くそう思わない(1)、そう思わない(2)、どちらも言えない(3)、そう思う(4)、強くそう思う(5)、の5段階に分けた。得られたアンケート結果をSPSS11.0とEXCELLを用いて分析した。

## 4. 分析結果

### 4-1. 前期と後期関連項目の比較

#### 4-1-1. 中国語学習の継続意欲

この教授法の最終目的は、学生の中国語を勉強する意欲を引き出すことである。半年の授業が終わって、また続いて勉強するかどうかは学習意欲を証明する有力な根拠の一つと思われる。そこで、筆者はまず勉強の前後のデータを比較したい（具体的な内容は、付録前期分アンケートの9番と後期分アンケートのIIの1番を参照）。

表1 前後期における中国語学習の継続意欲に関する学生の意識の比較調査結果

選択肢 <sup>5)</sup>	前期				後期			
	人数	比率	有効比率	累積比率	人数	比率	有効比率	累積比率
1	0	0	0	0	1	3.0	3.0	3.0
2	1	2.9	2.9	2.9	1	3.0	3.0	6.1
3	20	58.8	58.8	61.8	11	33.3	33.3	39.4
4	12	35.3	35.3	97.1	17	51.5	51.5	90.9
5	1	2.9	2.9	100.0	3	9.1	9.1	100.0
計	34	100.0	100.0		33	100.0	100.0	

以上の統計データから分かるように、中国語を勉強する前に、58.8%の学生が前期の授業が終了した後、引き続き勉強するかどうかははっきりしていない状態であり、継続して勉強する学生の比率は38.2%である。しかし、後期では、中国語の学習を止める学生（1、2を選んだ学生のこと）が6%いるが、はっきりしていない学生の比率が33.3%に減少し、引き続き勉強する学生（4、5を選んだ学生）の比率が60.6%に増加した。

#### 4-1-2. 中国語を勉強する理由

図 1

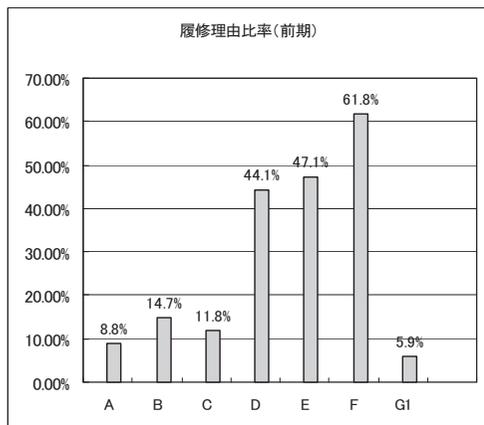
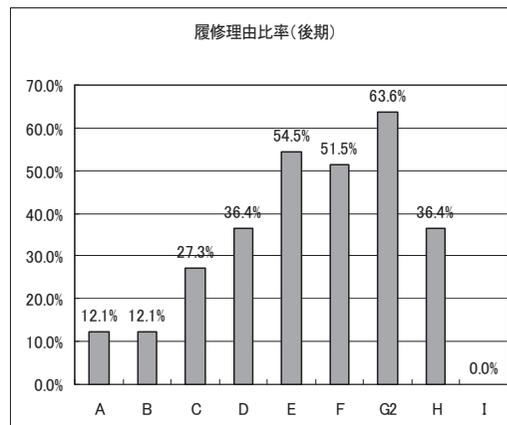


図 2



A：必修科目だから。B：他人に勧められているから。C：他の外国語より単位を取り易そうだから。D：就職に有利だから。E：中国に関心があるから。F：社会に入ってから、役に立つから。G1：その他。G2：面白いから。H：もっと勉強したいから。I：その他。

(注：この項目に関しては、複数の選択になっている。以上の図は順位に関係なく選択した学生をすべて計上し、作成したものである。)

図1と2の比較から推測されるように、アンケートをとる時期によらず、D、E、Fが中国語履修の主な理由となっている。勉強後、G2“面白いから”という理由が最も多く選択され、63.6%を占めている。この結果から、授業の面白さは学生の中国語を勉強する最も大きな原動力になっていることが示唆される。

#### 4-1-3. 中国語の勉強や中国語に対するイメージ

##### (ア) 中国語学習に対するイメージ

表2において、前後期における学生の意識調査の結果を比較した（具体的な内容は、付録前期分アンケートの7番と後期分アンケートのIIの2番を参照）。

表2-1 前後期における中国語学習に対するイメージに関する比較調査結果

選択肢	前期				後期			
	人数	比率	有効比率	累積比率	人数	比率	有効比率	累積比率
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	5.9	6.1	6.1	0	0	0	0
3	10	29.4	30.3	36.4	12	36.4	36.4	36.4
4	16	47.1	48.5	84.8	19	57.6	57.6	93.9
5	5	14.7	15.2	100.0	2	6.1	6.1	100.0
計	33	97.1	100.0		33	100.0	100.0	
無回答*	1	2.9			0			
計	34	100.0			0			

\*欠損値として処理した。

表2-2 前後期における中国語学習に対するイメージに関する比較調査結果

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率 (両側)
	平均値	標準偏差	平均値の 標準誤差	差の95%信頼区間				
				下限	上限			
	.3103	1.39139	.25837	-.2189	.8396	1.201	28	.240

表2-1の統計データ(比率)から分かるように、勉強する前に中国語が難しいと思っている学生の比率は61.8%、後期は63.7%である。後期は前期より上回る。また、表2-2から分かるように、前期と後期の有意確率(P値)は0.24(0.24>0.05)である。要するに、勉強した後中国語が難しいと思っている学生が減ってない代わりに、難しいと思っている学生が増えた。この傾向は以下の中国語に関する具体的な項目からもうかがえる。

(イ) 中国語に対するイメージ

次に、中国語の漢字や発音、文法の難易度を尺度として、中国語に対する学生が抱くイメージを調査した。表3-1、3-2、3-3、3-4、にこれらの結果を示した。その結果、表3-1より、漢字を難しいと感じている学生の比率は前期が73.5%、後期が75.8%であり、有意確率は0.882である。表3-2より、発音を難しいと感じている学生の比率は前期79.5%、後期94%であり、有意確率は0.07である。表3-3より、文法を難しいと感じている学生の比率は前期38.2%、後期60.7%であり、有意確率は0.456である。いずれも項目においても後期で回答した学生は難しく感じており、学習の継続により中国語をより難しく捉えていることが示唆される。

表3-1 前後期における中国語の漢字の難易度に関する学生の意識調査

選択肢	前期				後期			
	人数	比率	有効比率	累積比率	人数	比率	有効比率	累積比率
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	2	5.9	6.1	6.1	1	3.0	3.0	3.0
3	6	17.6	18.2	24.2	7	21.2	21.2	24.2
4	18	52.9	54.5	78.8	19	57.6	57.6	81.8
5	7	20.6	21.2	100.0	6	18.2	18.2	100.0
計	33	97.1	100.0		33	100.0	100.0	
無回答*	1	2.9						
計	34	100.0						

表 3-2 前後期における中国語の発音の難易度に関する学生の意識調査

選択肢	前期				後期			
	人数	比率	有効比率	累積比率	人数	比率	有効比率	累積比率
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	2.9	2.9	2.9	0	0	0	0
3	6	17.6	17.6	20.6	2	6.1	6.1	6.1
4	16	47.1	47.1	67.6	15	45.5	45.5	51.5
5	11	32.4	32.4	100.0	16	48.5	48.5	100.0
計	34	100.0	100.0		33	100.0	100.0	

表 3-3 前後期における中国語の文法の難易度に関する学生の意識調査

選択肢	前期				後期			
	人数	比率	有効比率	累積比率	人数	比率	有効比率	累積比率
1	1	2.9	2.9	2.9	1	3.0	3.0	3.0
2	4	11.8	11.8	14.7	4	12.1	12.1	15.2
3	16	47.1	47.1	61.8	8	24.2	24.2	39.4
4	7	20.6	20.6	82.4	15	45.5	45.5	84.8
5	6	17.6	17.6	100.0	5	15.2	15.2	100.0
計	34	100.0	100.0		33	100.0	100.0	

表 3-4 前後期漢字、発音、文法に関する有意確率の比較

	対応サンプルの差						t 値	自由度	有意確率 (両側)
	平均値	標準偏差	平均値の 標準誤差	差の95%信頼区間					
				下限	上限				
ペア 1 漢字が難しい	-.0313	1.17732	.20812	-.4557	.3932	-.150	31	.882	
ペア 2 発音は難しい	-.3333	1.02062	.17767	-.6952	.0286	-1.876	32	.070	
ペア 3 文法は難しい	-.2121	1.61550	.28122	-.7850	.3607	-.754	32	.456	

#### 4-1-4. 学生の意識変化に関する考察

以上のように、前後期に実施したアンケートの比較調査により、以下の結論を得た。

- (ア) 殆どの学生は最初積極的な態度で中国語を履修しているが、それはとりあえず中国語を勉強してみようという気持ちが強いからである。なぜならば、前期が終わった時点で、継続して勉強するかどうかははっきりしてない学生が6割以上いるからである。
- (イ) ほぼ6割位の学生が勉強する前に中国語が難しいと感じているが、勉強後、その数はさらに増えた。特に発音は学生にとって最も難しいことが分かった。
- (ウ) 学生が中国語を難しいと感じていることは学生の学習意欲にマイナスの影響を与えない。なぜならば、前期の勉強が終わった時点で、中国語が難しいと思っている学生が増えたが、

続いて勉強する学生の人数も前期より増えた。

(エ) 最も学生の学習意欲に影響するのは授業の面白さである。

#### 4-2. 学生の授業に対する態度と評価

##### 4-2-1. 授業の量や内容に関する評価

表4 授業に対する学生の評価

選択肢	授業における勉強する量が多い				授業の充実度			
	人数	比率	有効比率	累積比率	人数	比率	有効比率	累積比率
1	1	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0
2	15	45.5	45.5	48.5	0	0	0	0
3	15	45.5	45.5	93.9	3	9.1	9.1	9.1
4	2	6.1	6.1	100.0	23	69.7	69.7	78.8
5	0	0	0	100.0	7	21.2	21.2	100.0
計	33	100.0	100.0		33	100.0	100.0	

第2節にすでに述べたように、筆者は一回の授業で触れた文法項目は四、五個である。その以外に、復習、個人発表、ビデオの鑑賞による中国文化との触れ合いがある。表4から、48.5%の学生にとっては、勉強量としては多すぎると感じておらず、90.9%の学生がこのような授業が充実していると感じている。

##### 4-2-2. 小テストに関する反応

表5 小テストに対する学生の反応

選択肢	小テストが難しい			小テストが勉強を嫌いにさせた			毎回の小テストを続けて欲しい		
	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率
1	1	3.1	3.1	2	6.3	6.3	2	6.3	6.3
2	5	15.6	18.8	17	53.1	59.4	6	18.8	25.0
3	10	31.3	50.0	10	31.3	90.6	17	53.1	78.1
4	11	34.3	84.4	2	6.3	96.9	6	18.8	96.9
5	5	15.6	100.0	1	3.1	100.0	1	3.1	100.0
計	32	100.0		32	100.0		32	100.0	
無回答*	1			1			1		
計	33			33			33		

\* 欠損値として処理した

表5より、49.9%の学生は小テストを難しいと感じている。小テストがあるから中国語の勉強が嫌になった比率は9.4%であり、全体としてそのような学生の割合は少ない。

初級段階の中国語学習者の意欲向上を目的とする授業法の開発とその実践報告（張）

小テストをやめたい学生は25.1%、続けて欲しいのは21.9%、はっきりしてないのは53%である。

以上から分かるように、ほぼ半分の学生が毎回の小テストが難しいと思っているが、小テストに対して大きな抵抗感を持っている訳ではない。

#### 4-2-3. 普段の学習態度

毎回授業に出席していたか、授業で集中していたか、課外で中国語を勉強していたかを問い、学生の学習姿勢を分析した。表6より、毎回出席している学生の比率は59.4%、授業中集中しているのは75%である。授業以外にも中国語を勉強した学生の割合は15.7%であり、（まったく）勉強してないのは50%であった。

表6 学生の学習姿勢

選択肢	毎回授業に出席している			授業に集中している			授業以外にも中国語の勉強をしていた		
	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率
1	1	3.1	3.1	0	0	0	4	12.5	12.5
2	7	21.9	25.0	1	3.1	3.1	12	37.5	50.0
3	5	15.6	40.6	7	21.9	25.0	11	34.4	84.4
4	6	18.8	59.4	20	62.5	87.5	2	6.3	90.6
5	13	40.6	100.0	4	12.5	100.0	3	9.4	100.0
計	32	100.0		32	100.0		32	100.0	
無回答	1			1			1		
計	33			33			33		

#### 4-2-4. 授業に対する満足度

表7 授業に対する満足度

選択肢	満足した（肯定形）				不満であった（否定形）			
	人数	比率	有効比率	累積比率	人数	比率	有効比率	有効比率
1	0	0	0	0	10	30.3	31.3	31.3
2	0	0	0	0	15	45.5	46.9	78.1
3	6	18.2	18.8	18.8	4	12.1	12.5	90.6
4	22	66.7	68.8	87.5	3	9.1	9.4	0
5	4	12.1	12.5	100.0	0	0	0	100.0
計	32	97.0	100.0		32	97.0	100.0	
無回答*	1	3.0			1	3.0		
計	33	100.0			33	100.0		

\* 欠損値として処理した

授業に満足したか否かは教育方法の有効性を議論する中で、学生の本音に関連した議論として非常に重要な位置づけになるので、肯定と否定の形で二回設問することにより、より正確な結果を確保しようと考えた。これらの分析結果から表7を得た。「満足している」(肯定)学生の有効比率は78.8%であり、「不満をもっている」(否定)のアンケートにははっきりしていない学生及び不満を持っている学生以外には、満足と思っている学生の有効比率は75.8%である。二つの結果を合わせれば、77.8% [(78.8%+75.8%) / 2] の学生が授業に対して満足していることが示唆される。自由記述という項目から、不満を持っている学生の主な理由は小テストに関するものであることをわかった。例えば、「採点が厳しすぎる」や「範囲が少し広すぎる」などである。

#### 4-2-5. 授業に関する総合的評価

学生が授業を主観的にどのように感じているかを、(1)楽しい、(2)面白い、(3)楽である、(4)難しい、(5)ためになる、(6)中国語学習の意欲が出た、(7)中国への関心が高くなった、の7点についてアンケート調査を行った。学生の主観的な意見を問っているので、授業に関する総合評価とも関連する。分析結果を表8-1から8-3にまとめた。この調査では無回答者がいなかったため、有効比率は単純に全体に占める回答者の比率と一致する。分析結果から、授業が楽しい、面白いと感じている学生の人数はどちらも78.8%であったことが分かる。「楽しい」と「面白い」一見で同じようにみえるが、一般的に、「楽しい」というのは授業全体の雰囲気、授業のやり方などに関するものであると考えられていて、一方、「面白い」というのは授業の内容とは関係あると思われるだろう。授業が楽だと思っている学生は9.1%であり、難しいと感じているのは42.4%であった。ためになったと思う学生は87.8%、中国語の学習意欲を出たと感じたのは57.6%であった。中国語に関する学習効果以外に、中国語の勉強を通して、中国への関心が高くなったと思っている学生が78.8%であった。

表8-1 学生による授業に関する総合評価

選択肢	授業が楽しい			授業が面白い		
	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率
1	0	0	0	0	0	0
2	1	3.0	3.0	2	6.1	6.1
3	6	18.2	21.2	5	15.2	21.2
4	21	63.6	84.8	23	69.7	90.9
5	5	15.2	100.0	3	9.1	100.0
計	33	100.0		33	100.0	

表 8-2 学生による授業に関する総合評価（続き）

選択肢	授業は楽である			授業は難しい		
	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率
1	3	9.1	9.1	0	0	0
2	15	45.5	54.5	3	9.1	9.1
3	12	36.4	90.9	16	48.5	57.6
4	3	9.1	100.0	11	33.3	90.9
5	0	0	100.0	3	9.1	100.0
計	33	100.0		33	100.0	

表 8-3 学生による授業に関する総合評価（続き）

選択肢	授業はためになった			中国語学習の意欲が出た			勉強前より中国への関心が高くなった		
	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率	人数	有効比率	累積比率
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	3.0	3.0	3	9.1	9.1	2	6.1	6.1
3	3	9.1	12.1	11	33.3	42.4	5	15.2	21.2
4	21	63.6	75.8	15	45.5	87.9	21	63.6	84.8
5	8	24.2	100.0	4	12.1	100.0	5	15.2	100.0
計	33	100.0		33	100.0		33	100.0	

#### 4-2-6. 分析結果のまとめ

以上から得られた分析結果を、以下のように整理した。

- (ア) 学生は授業の内容を難しいと感じているが、同時に面白く楽しいものだと感じている。  
学生は、授業中集中しており、退屈な授業ではないことが示唆される。
- (イ) 学習効果に対してほぼ9割（87.8%）の学生が授業を通して、勉強になったと思っている。
- (ウ) 自分で中国語への学習意欲が出たと感じた学生がほぼ6割（57.6%）であり、学習意欲がでたことを感じてないのは1割（9.1%）以下である。
- (エ) 8割弱（78.8%）の学生が中国語を勉強することによって、中国への関心も以前より高くなった。
- (オ) ほぼ8割（77.8%）の学生が全体的に中国語の授業を満足している。

## 5. 結論

大学での教養教育においては、学生の学習意欲を引き出すことは大変重要な課題である。学生が感じた授業の充実さ、満足さは学生の学習意欲を引き出す過程に影響を与える主要素だと考えられている。筆者提案した教授法を実際に授業で実施し、その有効性を検証するためにアンケート調査を行った。その結果、9割以上の学生がいま受けている授業に充実感を感じており、87.8%の学生がためになったと感じていることが分かった。授業に対して満足している学生の割合もほぼ8割である。さらに、ほぼ6割の学生が中国語への学習意欲が出たと自覚している。このような結果は、本教育法が、初級段階の学生の中国語に対する学習意欲を引き出すことに有効であることを示唆している。

筆者が実際に使った教授法は学生の学習意欲の向上には役に立ったと実証でした。それらの具体的な教授法はみな各側面でそれなりの役目を果たしている。この中で、筆者が特に重視しているのは、学生に喋らせること、学生にペアで会話を作って発表させることである。筆者による2006年の380名の学生に対するアンケート調査による結果から、学生は中国語を喋りたいと感じていること、中国語を話せることによって授業を面白いと感じるということがわかり、学生の学習意欲を向上させるための対策の中心を口頭表現のスキルの向上に設定した。授業はこれを中心にして展開した。これと関連がある教授法は2節の(2)、(5)、(6)、(7)番である。

学生に授業を面白いと感じさせるには、まずその内容を理解させるのが前提である。授業の内容をいかにやさしく、明確に説明するかが、重要なポイントになる。中国語の文は漢字で成っているので、語彙の勉強は最も肝心なものとなる。そして、筆者は新しい単元を学習する時、必ず単語から始めることにしている。特に、新出単語は一個ずつ黒板に書いて、その発音、意味、そしてその使い方(関連がある文法事項)をその時教えるのはよい効果を得られた。筆者はこの部分の教授に時間をかなりかけている。実際の授業の実践結果から見れば、この部分をうまく出来れば、本文への理解や学生同士による会話練習などはスムーズに行えていた。実際の授業の雰囲気からみれば(アンケート調査のデータはこれを反映できていないが)、学生が中国語で筆者の質問に答えたり、学生同士お互いに中国語で会話を練習したり、発表した時はみな生き生きとしていた表情をしていた。

しかし、この教授法にも実施している途中で不備な点が表れてきた。例えば、学生の不満を招いた小テストの実施法である。とはいえ、授業効果を高める一つ的手段として、小テストを中止すべきではなく、形式を工夫する必要があるだろう。また、この教授法は授業に対する学生の集中力を高めることが出来るが、授業が終わってから、学生に自発的に勉強させる原動力を与える効果はあまり見られなかった。これは授業以外にも中国語を勉強した学生の割合が15.7%という低い数値に留まっていることから看取できる。これらの問題は今後解決しなければならない。もう一つの問題は、ビデオの鑑賞時間について、ビデオを鑑賞することは学生

の学習意欲を向上する方法の一つとして取り上げていたが、ビデオを見る時間が長すぎると、学生の集中力はだんだん落ちてしまい、寝てしまった学生が次第に出てきた。勿論、ビデオの内容により、状況も変わるが、筆者のクラスの場合は、大抵15分間過ぎたら、一部の学生の顔に飽きていた表情が見えた。要するに、学習意欲を向上させるためには、ビデオを鑑賞する時間は具体的な状況によって、調整しなければならない。

以上に述べたように、筆者が提案した教授法は、学習意欲を引き出す点にはよい効果があるが、筆者が教えている大阪国際大学の学生から得られたものである。したがって、本教授法の適用範囲や議論できる範囲が限定されていると言って良いだろう。ある程度の一般性を確保するため、統計処理を行っているが、教育現場が異なれば例外は多々出てくると思われる。各教育者は自分の状況に応じて、それなりの教授法を実施しなければならない。ただ、筆者としては、この教授法が現在の大学における教養教育に少しでも役立つなら大変嬉しいことである。今後、本教授法にさらに研究を加え、より効果的に目的を達成できるようにしてゆく予定である。

#### 注

- 1) 初級段階の概念に関しては、いろいろな解釈があるが、小論では、中国語の学習経験の無い初学者（大学生）が、学び始めて最初の28時間を初級段階と呼ぶこととする。
- 2) 張軼欧『第二外国語としての中国語の初級教育に於ける問題と対策』（関西大学外国語教育機構『外国語教育フォーラム』第6号2007年3月）
- 3) 最初の一ヶ月の発音の段階では小テストを実施してない。期末試験前の二回の授業も実施してないため、1学期で実施した数は20回である。
- 4) 二回のアンケートは主に2006年のアンケートに基づいて作ったものである。2006年におけるアンケートに含まれてない新しい項目に関しては、事前アンケートを実施した。アンケート1の事前アンケートは授業の一回目で実施、アンケート2の事前アンケートはアンケート実施される前の授業で行った。
- 5) 選択肢1、2、3、4、5はそれぞれ全くそう思わない、そう思わない、どちらも言えない、そう思う、強くそう思う、の5段階を指している。以下の表はこれと類似する。

付 録

中国語の授業についてのアンケート（前期分）

1. 今まで中国語を勉強したことがありますか。

A：ある。 B：ない。

2. この授業以外に、ほかの中国語の授業をとっていますか。

A：取っていない。 B：取っている。

3. 中国に対して興味をもっている。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

4あるいは5を選んだ方は、次の質問に答えてください。

中国のどんなところに対して興味が持っていますか（自由記述しなさい。）

A：

B：

4. 中国語に対して興味をもっている。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

4あるいは5を選んだ方は、次の質問に答えてください。

中国語のどんなところに対して興味が持っていますか（自由記述しなさい。）

A：

B：

5. 中国語の授業を取った理由は何ですか。

A：必修科目だから。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

B：他人に勧められているから。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

C：他の外国語より単位を取りやすそうだから。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

D：就職に有利だから。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

E：中国に関心があるから。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

F：社会に入ってから、役に立つから。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

G1：その他（ ）

AからG1までの選択の中で、4あるいは5を複数選んだかたはその順位を記入してください。

1位（ ） 2位（ ） 3位（ ） 4位（ ）

6. 中国語の授業を通して、何を中心に学びたいですか。

A：会話。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

初級段階の中国語学習者の意欲向上を目的とする授業法の開発とその実践報告（張）

B：文法。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

C：読解。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

D：文化。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

E：中国語の資格を取るための試験対策。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

F： その他（ ）

Aからその他の選択の中で、4あるいは5を複数を選んだかたはその順位を記入してください。

1位（ ） 2位（ ） 3位（ ） 4位（ ）

7. 中国語の勉強は難しい。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

8. 中国語に対するイメージ

A：中国語の漢字が難しい。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

B：中国語の発音は難しい。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

C：中国語の文法が難しい。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

AからCまでの選択の中で、4あるいは5を複数選んだ方はその順位を記入してください。

1位（ ） 2位（ ） 3位（ ）

9. 半年（セメスターの場合、一週間授業2回）、或いは一年間（一週間授業1回）の勉強が終わったら、また続いて勉強したいです。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

10. 半年あるいは一年間の勉強を通して、どんな目標に至りたいですか。自由記述しなさい。

A：

B：

C：

11. その目標に至るには、どんな方法を使ったらいいのかに対して考えたことがありますか。

A：ない。 B：ある。

Bを選んだ方は、具体的に記入しなさい。

A：

B：

C：

中国語の授業についてのアンケート（後期分）

I

1. 今まで中国語を勉強したことがありますか。

A：ある。 B：ない。

2. この授業以外に、ほかの中国語の授業をとっていますか。

A：取っていない。 B：取っている。

II

1. 私はこれからまた続いて中国語を勉強したいと思う。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

その理由を自由に記述しなさい。

A：必修科目だから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

B：他人に勧められているから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

C：他の外国語より単位を取りやすそうだから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

D：就職に有利だから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

E：中国に関心があるから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

F：社会に入ってから、役に立つから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

G2：面白いから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

H：もっと勉強したいから。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

その他（ ）

AからG2までの選択の中で、4あるいは5を複数選んだかたはその順位を記入してください。

1位（ ） 2位（ ） 3位（ ） 4位（ ）

2. 中国語の勉強は難しいと思う。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

3. 中国語に対するイメージ

A：中国語は面白い。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

初級段階の中国語学習者の意欲向上を目的とする授業法の開発とその実践報告（張）

B：中国語の文法は難しいと思う。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

C：中国語の発音は難しいと思う。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

D：中国語の漢字は難しいと思う。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

#### 4. 授業に関する感覚

A：この授業は私にとっては、楽しいです。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

B：この授業は私にとっては、難しいです。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

C：この授業は私にとっては、楽です。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

D：この授業は私にとっては、面白いです。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

E：一時間の授業で勉強する量は多いです。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

#### 5. 小テストに対する反応

A：毎回の小テストは私にとっては難しかった。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

B：毎回の小テストは私にとっては楽しかった。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

C：毎回の小テストがあるから、私は中国語の勉強にいやになった。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

D：私は毎回の小テストを続けて欲しい。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

#### 6. 普段の学習態度

A：私は毎回出席している。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

B：私は授業中授業の内容に集中していた。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

C：私は授業以外にも中国語を勉強しました。

全くそう思わない	1	そう思わない	2	どちらも言えない	3	そう思う	4	強くそう思う	5
----------	---	--------	---	----------	---	------	---	--------	---

7. 授業に対する満足さ

A: 私はこの授業には満足しています。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

どこが満足しているかについて自由記述しなさい。

- ①
- ②
- ③

B: 私はこの授業対して、不満を持っている。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

どこが不満かについて自由記述しなさい。

- ①
- ②
- ③

8. 授業に対する評価

A: この授業は私にとって、勉強になりました。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

B: この授業は私にとっては、充実だと思う。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

C: 私はこの授業をとって、良かったと思う。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

D: 私はこの授業を通して、中国語への勉強する意欲を出た。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

E: 勉強する前より、私は中国への関心が高くなった。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

F: 半年の勉強を通して、私が最初設定した目標に至ったと思う。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------

4 或いは 5 を選んだ方は次の質問を答えなさい。

その目標に至ったには、授業以外には私は自分でも工夫しました。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらも言えない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
------------	----------	------------	--------	----------